



ミズカマキリやタイコウチが、どうしてカメムシの仲間になるの

ストローのような口が、カメムシの特長

水中にいる、カマキリによく似たミズカマキリや、タイコウチ、水面を走るアメンボなどが、カメムシの仲間といわれるとびっくりしますね。

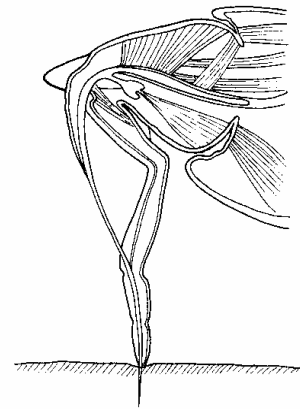
水生こん虫は、たいてい、ミズスマシやゲンゴロウ、ガムシなどのようなカブトムシの仲間が、カメムシの仲間のどちらかになります。

カブトムシの仲間は、じょうぶなあごをもち、えさを食いちぎって食べます。カメムシの仲間は、ストローのような口をもち、陸上で見かけるものは、植物のしるを吸っていることが多いものです。ところが、水生こん虫のカメムシの仲間は、ほとんどが肉食で、魚やほかの水生こん虫などをとらえて、針の口をつきさし、獲物の体液を吸っています。

カメムシの仲間は不完全変態をする

カブトムシの仲間は、卵、幼虫、さなぎ、と変化して成虫になる完全変態です。でも、カメムシの仲間は、卵、幼虫から成虫になり、さなぎの時期がなく、幼虫時代から親に似た形をしています。これを、不完全変態といいます。カメムシの仲間の特長といえます。

ミズカマキリやタイコウチは、つゆのころになると、水辺の土やコケの生えた所に産卵します。同じカメムシの仲間に入るタガメは、水上につき出たきなどに卵を産み、コオイムシは、オスの背中に卵を産みます。卵から出てくる幼虫は、親によく似た姿をしています。(監修・中山 周平)



カメムシの仲間の口

